

# アルパック ニュースレター 地域計画・建築研究所



建て替えられる大阪肥後橋ビル  
 (本文「再生されるか都会の栄華」で紹介しています)

---

## アルパック ニュースレター もくじ

---

特集「今、都心でおこっていること」など

- ・再生されるか都会の栄華..... 2
- ・福岡の都心..... 3
- ・日本一小さい都市ガス会社..... 5
- ・大阪事務所移転てん末記..... 7
- ・きんきょう..... 8
- ・新刊旧刊書評紹介..... 11
- ・まちかど..... 12

NO. **42**

## 再生されるか都会の栄華

鵜飼 奈弓

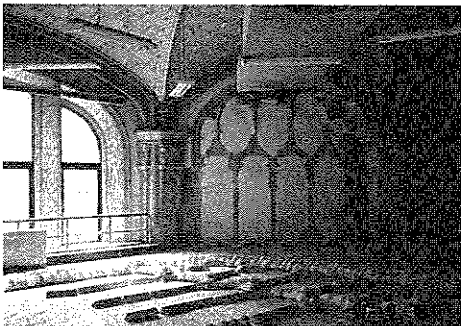
### 大阪肥後橋のビル建替

周知のとおり、最近の地価高騰のあおりを受け、大都市はどこでも都心部のリストラクチャアの流れてあって、大阪もその例に洩れない。肥後橋のたもとのヴォーリスによる大同生命ビルも同じ運命にあった。同ビルは大正14年に株式会社加島銀行・廣岡合名会社の所有地に大同生命保険株式会社が建造し、それら3社の営業所のほか、大同生命ビルディングとしてテナントに賃貸もしていた。RC造8階（一部9階）建てで、1・2階吹き抜けの営業室（銀行窓口部分）は大空間の上の大きなスカイライトから採光し、その上部は3階以上の光庭として機能している。建具や設備機械には英国・米国からの輸入品を用い、外壁は火事から軀体を守るとの理由で米国製のテラコッタ張としている。折衷式ゴシック様式の外観をもっている。

### 建替のまよう

建て替えが決まり、6月の取り壊しを目前に控えて移転準備作業中の5月中旬、訪ねてみた。

まず目についたのは、廊下に貼られた張紙  
天井、壁面、柱の意匠の取りはずし



である。テナントにあてた『協力のお願い』として、まだ使用中の部屋で壁・天井・柱などの取り外しに工事業者がはいることの了解を求めている。そして大ホール（客が入る部屋）に入って驚いたのは、床一杯に整然と並べられたまぐさや柱頭部のレリーフ、リブ・トレサリーの数々……。これらは、新ビルに現物保存再生もしくは復元再生される。ただし、復元といっても施工方法はオリジナルのままというわけにはいかず、たとえば天井の浮き彫り線などは竹材を曲げたものに着色するとか、リブ・ヴォールトはGRC（グラスファイバー入りコンクリート）を使用するといった具合である。これは、ヴォーリスの時代にあった技術が、今は無くなっている事を示している。浮き彫りは、当時の職人が現場で自在につくっていったらしく、デザイン図などは殆ど存在しない。今、デザインしようと思ってもどこか変になってしまうとのことである。因みに残存文書によると塗師として林秀治の名が記録されている。勿論彼ひとりの手になるものではないであろうが、当時の職人は「塗る」技術のみならず、優れたデザ

### 再利用パーツ類



インセンスも持ち合わせていたといえる。

また、メモリアルホールにはスカイライトを再現し、また大理石の床パターンを現物保存再生させる。

#### ビル側の建替計画

同ビルの『メモリアル計画』によれば、このような〔歴史の厚みを表現する（特に現在失われた技術に関する）象徴的な部分の再生・復元による内装計画〕のほか、〔イメージ継承の手法に基づく外装計画（テラコッタを用いる・ピナクルやトレサリー、蛇腹、装飾の復元・垂直式ゴシック様式を象徴するパームヴォールトの創造）〕〔新本社ビルの外部・内部において再生できないが価値ある部分についてのメモリアルオブジェとしての再生計画（現ビル外壁の1スパン分を公開空地に保存）〕によって、「実物の保存とはいえないが、デザインをイメージ継承するこ

とにより、都市景観を将来にどうつないで行くかという課題に対する一つの解答」と位置づけている。

#### 保存か開発か

保存か開発か——あるいは維持か更新か——は、我々の間でしばしば議論されている問題であるが、近年この両立を目指す企画が多く表れている。外壁のみの保存や、目抜き通り側の看板建築的保存などが多いが、これは一体何を意図したものなのか。単に貴重な遺構・文化財としての保存なのか、現代のノスタルジックな風潮への迎合か、または企業側の記念碑的な自己満足に終わるのか。そうでないとすれば、これらが都市や地域の将来に及ぼす影響は何であるのか、または何に期待しているのか。それはすぐには答えがでないが、興味ある問題であると思う。

（京都事務所 うかい なゆみ）

## 福岡の都心

### ～発展する中で問題を抱える都心～

山田 龍雄

「都心」とは

1986年に「大都市の都心を考える」というテーマで開催された「大都市企画主管者会議」で出された各都市の都心の定義は、概ね「中枢的管理業務並びに大規模店舗や専門店が集中している地区並びにこれらと隣接して商業、業務施設と住宅とが混在している区域」となっており、これに人口減少の要素を加味している都市（京都、名古屋、川崎）もみられますが、これといって定まったものはなく、都市の規模、特性などによって多少異なっているようです。

福岡都心部の概観を紹介すると、範囲は約900ha、人口密度は約98人/haとなってお

り、全国でも都心部に居住している人が多いところでもあります。また、福岡の都心部は2眼レフ構造といわれるように商業、業務の都心機能が天神地区、博多駅地区の2極に集中しており、今後、この天神地区と博多地区の適切な役割分担とネットワークづくりが必要であると思われます。

#### 目白押しの再開発構想

福岡市を訪れる人たちが口々に「福岡は他の都市に比べて活発ですね」とよくいわれる。これは好景気の波に乗り、また昨年度開催された「アジア太平洋博覧会」、今年度の「とびうめ国体」、1995年度開催予定である「ユニバーシアード大会」とビックイベント

が続き、福岡の拠点性が益々高まり、インフラ整備や建設活動が盛んであることを表しているものです。

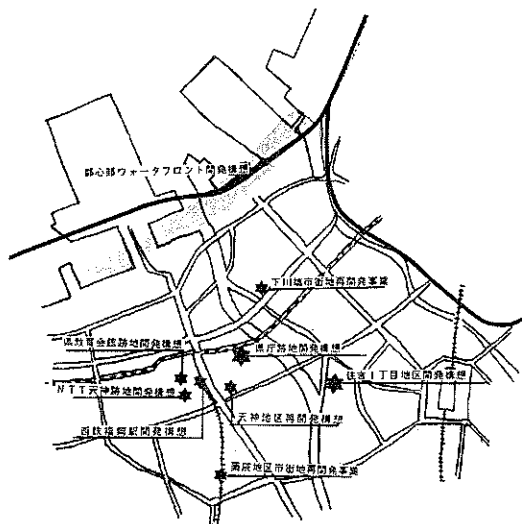
この福岡の拠点性を担っている都心部の天神地区では、西鉄福岡駅、福岡バスセンター、県庁跡地、旧鐘紡跡地、NHK、NTT、中州川端などで再開発計画が目白押しとなっており、1990年後半までには天神地区での総売場面積は、現在の約17万㎡から約6割増の27万㎡ぐらいになると予想され、都心部の集中がさらに加速されるものと思われます。

#### 都心に近い空港と都心部容積の問題

博多駅前の大通りをみて、建物の高さが統一され、景観的にもまとまっているのに気づかれますが、これは景観条例などにより規制を行っている訳ではなく、福岡空港が市街地内にあるため航空法による高さ制限を受けているためであります。

都心部と空港とは約15分で結ばれており、福岡空港は全国でも空の玄関口としては極めて利便性の高い空港であろうと思われませんが、高さ制限のため、まとまった敷地でないと総合設計などによる容積率アップ効率が発揮しにくいといった面をもっており、都心部の機

#### 都心部の主な開発計画の位置



#### 高さの整った博多駅前の景観



能更新の足かせとなっているのも事実です。今後、西日本、アジアの拠点を目指し、市の活力アップを考える場合、都心部の土地の高度利用をさらに図っていかなければならない面もあり、空港との絡みは難しい一面を持っています。

#### 東京などの大都市とは異なった都心部の人口減少

昭和55年から昭和60年の5年間で人口の動向をみると、都心部全体では約500人程増加しており、東京、大阪などの大都市のように全体的な減少となっていませんが、増加している地域と減少している地域とがはっきり区分されるのが特徴となっています。

この人口が減少している地区は、一つには東京都心部と同じように天神、博多地区の中心部で業務、商業機能の拡大により、徐々に住機能が追い出された地域と、もう一つは戦後、戦災復興土地区画整理事業、博多駅地区土地区画整理事業の2つの大きな面開発の対象になっておらず、道路等の基盤が未整備で、狭小宅地や細街路などが残されており、土地利用の更新がしにくい地域であるため、地上げの進出や街のイメージ低下などとあいまって比較的若い世帯を中心として人口が減少している地域の二つ地域がみられます。

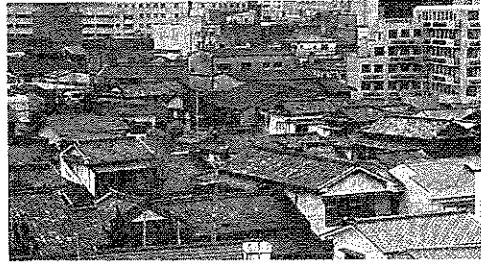
特に後者の地域においては、10年間に児童数が半減している地域もあり、このまま続けば地域コミュニティの崩壊の恐れもありま

す。

昼も夜も人々の息吹きが感じられるような魅力ある都心とするために、このように人口の減少が続いている地域においては、早急に住機能の回復を図っていくような施策の導入が必要な時期にきているといえます。

(九州事務所 やまだ たつお)

#### 都心部の木造密集地区



## 日本一小さい都市ガス会社

### ～ 長田野ガスセンター ～

山田 泰造

京都府の北部福知山市の東部丘陵に展開する内陸最大の長田野工業団地の中心部にガス会社があります。従業員16名、需要家835、供給区域工業団地内400ha(最少)とこじんまりした会社ですが、設立当時から注目された特異な会社です。酸性雨の被害が欧米先進国で深刻で、TVや新聞で報道されるたびにこの会社のことが思い出されます。

#### 会社の概要

ガス事業便覧(元年度)によれば

- 1) 社 名 榑長田野ガスセンター
- 2) 設立年月日 昭和47年9月26日
- 3) 許可年月 47年10月簡易ガス事業  
48年7月一般ガス事業
- 4) 資本金 75百万円
- 5) 工場敷地面積 9,927 m<sup>2</sup>
- 6) ガス売上高 750百万円(平成元年度)

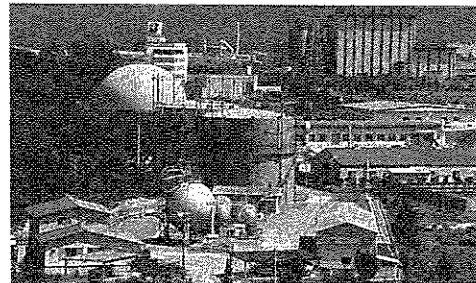
#### 会社設立の項

45年京都府は長田野工業団地の造成に着手、46年になると次第に工場建設を始める企業も現われ、多少活気が出てきました。多数の来訪者の中にはプロパン業者の姿も散見されましたが、46年7月初旬丸善エンジニアリング山本定男氏(現河内長野ガス社長)が尋ねて

こられ「この大団地の大気汚染問題にどう取り組むお考えですか。福知山の地形、気象条件からみて個々の企業の責任に負せるべきではありません。クリーンエネルギーの一括供給こそ絶対に必要です。私も一緒に考えさせて下さい。」氏のほとぼしる情勢はその場に居合せた職員を完全に魅了しつくしました。直ちに滋賀県草津のガス会社と湖南工業団地を見学、当初から計画的にガス供給事業を実施することが絶対必要であると痛感しました。

当時、四日市ぜんそく、イタイイタイ病、水俣病等の公害問題で日本中が沸騰していました。大阪府は44・46年ブルースカイ計画を策定し、個々の工場ごとの改善計画を直接指導し、さらに総量規制に踏切ろうとしていました。長田野工業団地は重金属の工場排水の

#### 長田野ガスセンターの風景



規制には厳しい基準を適用し、公害のない工業団地を目指していましたが、大気汚染については大阪府等の考え方を参考に抜本的な方策をあれこれと模索しつづけていたのが実情でした。山本氏との出会いはこの時点で大きな意味をもつものとなりました。直ちに安定したガスの供給（カロリー、圧力）、料金、用地、開発費負担金、操業時期、許認可等、多くの懸案事項を通産省、京都府、関係会社が一体となり全力をふるって取組み始めました。たまたま大量にガスを使用するW電気の操業が48年7月の予定であったので、この時期を逃せば統一的な供給体制も画餅に帰しかねないとの判断から果敢な措置がとられました。そして日本で初めての工業団地専用のガス会社が計画どおり48年7月に稼動を始めました。

#### 石油危機の項

石油危機の直前にガス事業を開始することができたのは幸運であったといえましょう。石油危機により電力は強力な節電・停電を強制されましたが、一方ガスは制約をうけることもなく、需要家から大きな信頼を受けました。石油危機が終息し、石油価格が安定する項から不況色が強まり、日本中の企業は経費節減に努め、省力化・省エネ化の大合唱が起りました。ガス供給を指向していた工業団地は次々と計画変更を余儀なくされ、遂にガスというクリーンエネルギーの一括供給を断念せざるをえなくなりました。

そうした中で、静岡県富士市でもガスの集中供給が検討されていました。40年代の富士市は地下水の過剰汲上による塩水問題、また大気汚染では全国ワースト5の一つに数えられ、さらに田子浦港の悪臭とヘドロ公害は大きな社会問題となり、国も積極的に乗り出すことになりました。もともと富士市は地下水が豊富で江戸時代から日本一の製紙業の中心

地で、40年代約120の工場が集中、うち9割は中小企業でした。これ等を対象として47年工業用都市ガス供給基地が計画され、54社の参加を得て着手されましたが、50年4月供給開始の段階でガス価格は当初予定の3倍に上昇しており、実際に供給を受けたのは5社にすぎませんでした。会社もこの苦況乗切りのため必死の努力をし、現在奇しくも長田野ガスと同数の35工場に供給し、大きな成果をあげています。

#### 山椒は小粒でもびりりと辛い

長田野ガスは大富士ガスに比べればはるかに小粒で、売上高で約1/5、需要家数も約1/20にすぎませんが、立地した全企業に操業開始時点からガスを供給する体制を確立しているという点では立派なものです。日本には民営・公営あわせてガス事業者が246あり、大は東京ガスの従業員13,000人から小は5人まで、需要家数では700万から744までと全く多様ですが、売上高からみればこの会社はほぼ100位、売上高の工業用に占める比率は95%、第2位が大富士ガスの80%と他社と比較になりません。都市ガス大手5社でも大体30%前後です。

10年間無事故で大臣表彰を受け、安定したガスを大阪ガスより下廻る価格で供給していること等の外に、会社の最大株主が(社)長田野工業センターで、立地企業やその従業員のために常に経営に眼を光らせ、株式会社の効率性と、公益法人としての公共性を重視する会社運営が行われていることは、今後の第三セクター運営方式に大きな指針となりましょう。

地球環境問題への道程はなお長い日時を要しますが、こんなとき、この事例を参考としていただければ幸いです。

(京都事務所 やまだ たいぞう)

## 大阪事務所移転てん末記

堀口 浩司

前回のニューズレターでお知らせしたように、4月末に大阪事務所が移転しました。

天満橋では5箇所、3フロアの床を借りており、小さな部屋がタコ足状に分散しておりました。このようなスプロール状態では所内での情報交換が円滑にできなかつたり、作業効率面も低下し、資料管理面でもまさに「死蔵」する状態になりつつありました。

今年の4月には、一人当たりの面積は8.5㎡と最悪の状態になりました。直接的な原因は資料、OA機器や人員の増加ですが、間接的には家賃の値上げや、同じビル内で新たな部屋が空かない等の状況が重なり、永年慣れ親しんだ天満橋を後にすることにしました。

実際に移転したのは90年4月末でしたが、中期的な人員フレームや移転先の立地条件、賃貸条件、規模等の検討を重ね、移転まで9ヶ月かけて準備しました。

### OBPに決まるまで

移転についての基本的なフレームを決め、仕事上でお世話になっている方の紹介を通じてOBPプラザビルに決定しました。当初はOBPの中ということで、いささか敷居が高いといった感もありましたが、家賃等の条件が良く、士気の向上など見えない効果も期待して移転先として決定されました。

### 空間計画を決めることでCI化する

……FM(ファシリティマネージメント)

レイアウトは、我々の仕事のスタイルとその将来像、情報交換や意思の疎通の方法、上下の関係、内外の横の関係等を、実行委員会や各部内で何度か議論を繰り返す中で、共通の

理解を得て、極めてスムーズに決定されました。

また引っ越しの実施にあたってはできるだけ全員参加を目標にして、それぞれ役割が与えられ、作り上げる過程を重視しました。

### 作業空間の考え方

100坪強の小さな事務所でも、接客、思考作業、情報交換などさまざまな空間機能を快適で機能的なものにする必要があります。中でも所員の作業空間の考え方は、我々の仕事の質や形態が変わりつつある中で、今後どのようなものが最も快適か、多様性を持っているかを議論する中で検討しました。

#### ①作業空間はオープンにする。

移転先を探す時点から、今度入る先はワンフロアでできるだけ整形な大部屋を確保すると決めていました。これは事務所レイアウト上、入れ物は整形でかつ適正な興行きがあれば、後でレイアウト変更が容易である。更に内部の情報交換には大部屋の方が良く、考え方や方法論といったものを仕事を通じて共有のものにして行くには、別の部屋やフロアでは難しいと考えていました。

最近主流のパーティションブースは、落ちついて仕事ができる反面、いわゆるタコ壺状事務所内風景



態になる可能性もあります。他人の仕事の中身や、その人の状態を回りから見れるようにしたい。その反面、仕事をする時にはできるだけ集中したい。この相反する条件を満たすため、前面にのみ低いパーテーションを配置しました。机の高さも卓上パソコン(ラップトップ)の使いやすさを考えて従来より低くし、全体の視線を下げる。机にむかった時には向かい側の人と視線が合わない、しかし顔を上げると窓の外の風景が見渡せる、そのような作業イメージを作りました。

### ②机のレイアウトは田の字プラン

一つのプロジェクトを複数の人間で共同して遂行することにしており、段階的な階層構成より、横並びの展開をする方が我々に合っているとの考え方から、4つの机を一つの島にして、これを連続させることにしました。

### ③机は横長でラインを長くする。

所員の執務用の机は700×1800mmのものを採用しました。最近では誰でもパソコンを使うようになってきているので、奥行きは狭くて良いから横長にして、機械と入力データや書類、図面を同時に見れるようにしました。いくつかの仕事を同時に処理する場合も想定し、ワゴンを引き出し代わりに使うことにしました。両側のワゴンを机の下から引き出すと、コの字型になって机の延長が最大2600mmまで拡張できるようにしました。

### 実際に引っ越したのは半分ぐらい

引っ越し時に用意した段ボール箱の内900個ぐらいを実際移動しました。ベテランから新人までを平均すると、一人あたり20個強の資料を移動したことになります。私の感じでは、移動前に整理して約7割ぐらい減量し、更に移転後の整理で7割ぐらい、都合半分になったように思います。

### 意外に少なかった引っ越し費用

移転費用はとかく膨らみがちですが、厳しいコストコントロールの中ではほぼ予定内に納まりました。費用の大部分は、パーテーションなどの工事と机やロッカー等の家具備品類ですが、家具類は機能を充足させるものを既製品で吟味し、部分的に仕様を変更して貰いました。

机以外の家具は、ほとんど既存のものを使用しました。3～4年前から家具類のメーカーや色、規格等を統一しつつあり、いわば事前の準備が費用面では大きな効果を上げています。それ以外では、廃棄物処分は全体の金額からみれば僅かですが、できるだけ再生可能な分別をし、仕事を通じて知り合った方にその処分をお願いしました。当初ある程度の出費を覚悟してましたが、区分して渡すことで、最終的には逆に頂戴しました。

(ほりぐち こうじ)

大阪事務所移転実行委員長)

さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況

## '90 新人紹介

京都事務所「金の卵入荷しました。」

ストレスで輪郭が卵型になってきてしまいました。アルバック・ダイエット協会副参事。

……………中井知加子(第3計画部)

紺のスーツ1着とネクタイ2本で頑張ってま

す。卵で言えば熱くて持てない固ゆで卵。

……………中嶋 秀介(第3計画部)

新鮮とまでは言えないけれど腐ってはいません。でもいつも水に浮いています。

……………前田 怜嗣(第3計画部)

目玉焼きを作ろうとしてできたスクランブルエッグとは私の事。でも職人気質では負けません。……………松木 一恭(第3計画部)



京都事務所新人

左から、前田、吉岡、中井、中嶋、松本



産まれたての卵です。他の卵には古いものもまじっていますので十分気をつけて下さい。

……………吉岡 倫子(総務部)

【以上、50音順】

卵料理は多種多様ですし、それだけでなくも生命の可能性を秘めている卵とは、すごい素材です。それをどう料理するかは、アルパックを含めた、社会の責任です。

大阪事務所「新さがし」

若林 秀和(第2計画部)

情報通。常に人の噂話をいい歩いていないと気がすまない。しかも、しょうもないことをよく覚えている。1日にめしを5合くらい食べられる大食い。

竹野 潔(第3計画部)

まじめ人間。よく働くエラ〜イひと。アメリカで車で死にそーになったことがある。弁当箱がでっかい。

東島 康子(総務部)

いまのとこおとなしい……1か月後が楽しみ。ドーナツが鬼のように好き。KYKのヤング弁当(ボリューム満点)とゼリーとジュースをたいらげられる。

佐野 紀美子(第1計画部)

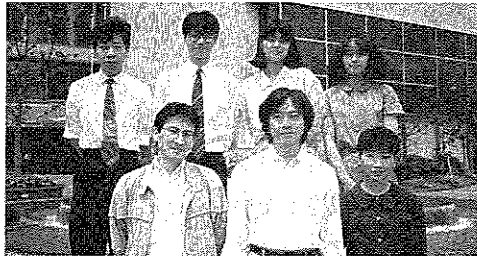
とっても丈夫な胃袋の持ち主です(保証付き)。「めっちゃ腹立つわ」「え〜」「わらける」が口ぐせ。お魚のことになぜか詳しい。

坂井 信行(第1計画部)

へビメタと誤解されているが実は(自称)ブ

大阪事務所新人

上段左から、若林、竹野、高橋、東島  
下段左から、江上、坂井、佐野



ルースマン。些細なことでも人のあらいを探るのがうまい。「うさんくさい」ものが好き。

高橋 はるみ(総務部)

やさしくて、掃除・洗濯・料理の得意な夫をもつことを夢見ている。電話に出るときはすぐお嬢さまっぽい声になる。イヤリングはたくさん持っているが耳は2つだけしか持っていない。

江上 統一朗(第2計画部)

のんびり屋の心配性。「かなんな〜」「ひまそうやな」が口ぐせ。体が弱く病気がち。

“若年寄り”(ぱっちははいている!)。自作の曲に聞きほれる(ナルシスト?)。

【以上、よく食べる順】

名古屋事務所

木村 繁 仕事にあ〜と言う

溜息をつきながら

仕事をする

捻ねた新人です。

小竹 暢隆 仕事よりも

JCの方が忙しく

今さら新人紹介でもあるまいしと嘆いている

老いた新人です。

九州事務所

歌丸 屋子

九州事務所のタウンページです。

ビールの飲み比べでは負けません。

他流試合を歓迎します。

編集雑感

藤田 武彦

アルパックニュースレターは1983年7月にスタートしています。今月号で42号になりました。私が編集責任者になったのは、27号（1988年1月号）からですから現在まで2年半ほど編集をしていたこととなります。

そもそもアルパックニュースレターは「人のぬくもりの感じられる記事」「論より足でかせいだ記事」を中心に紙面を構成し、「世の中にはおもしろいことがあるもんやなあ」といったことを文字通り「レター」としてお送りしたいと思ってはじめられたものです。私もその主旨に賛同して軽くひきうけたのですが、ご期待にこたえられたかどうか心配です。しかし、時々お寄せいただく暖かいお便りなどを支えに続けてきました。

現在アルパックニュースレターは1,000人以上の方々にお送りさせていただいています。当初から考えると大変な広がりをもってきて

おり、感慨深いものがあります。それだけに内外からさまざまなご要望も出ております。「特集など組んでまとまりのあるものにした方がいいのではないか」とか、「刺激のある記事にしてほしい」などなどです。それとは逆の意見もあるのですが、レターの主旨を生かしながら少しずつ紙面もかえていくことが必要だと考えています。ただ1,000部をこえるようになって、読者の顔がみえにくくなり、「レター」の性格がうすらいでいくことが気がかりです。紙面だけでなく、人間的なおつき合いも深めていく必要があります。

本号から新しい編集体制でスタートし、編集スタッフを増員して比較的若い世代での編集となりますが、今後とも変わらぬご指導のほどお願いいたします。

（大阪事務所 ふじた たけひと）

編集局から：長い間、編集責任者としてがんばっていただいた藤田氏は、今月をもって退社され独立されることになりました。長い間御苦労さまでした。

『地霊』に引かれて(?) 事務所移転

東京事務所長 斎藤 侑男

つい最近、「東京の『地霊』」という本が発行されています。おどろおどろしい表題ですが、著者は鈴木博之氏で、内容は都市に密着した面白い話を真面目に集めて歩いたものです。その中に、今の東京事務所のある近く、芝に触れた部分があります。皆さん御存知の、尖塔状の横腹に風穴を設けた超高層ビル、日本電気本社の敷地についての記述です。かつての「薩摩屋敷」が「さつまっばら」、「桑茶令」、「勸農局育種場」、そして何代かの民間の手を経て日本電気の敷地となっていったというものです。この「勸農局育種場」は、元々は、今の新宿御苑にあたる地にあったものが、

麦や棉をつくるのに不適ということで、芝に移ったものとされています。

ところで、今度、東京事務所は、新宿御苑の前に移転することになりました。都市には、いわく因縁が重属しているものですが、そのしがらみの中に、一歩ずつ踏み込み始めたといったら、自負に過ぎることになりましょうか。

事務所の広さも少し広くなりました。後は、仕事をする人が増えるだけです。重ねて、よろしく願い申し上げます。

（さいとう いくお）

新東京事務所

住所 〒160 東京都新宿区新宿2-5-16  
霞ビル401号  
TEL 03-226-9130 FAX 03-226-9560

## 新刊旧刊書評紹介

## いま都会で売れている雑誌

マガジンハウス 「Hanako」  
リクルート 「ケイコとマナブ」

紹介 山村 幸治

今回は、今までと指向の違う雑誌についてです。書評としては少しとまどいを感じつつ、でも個人的にはさほど違和感なく書かせていただきました。

『Hanako』（88年5月創刊）は、東京のみで販売されていましたが、最近大阪でも『Hanako west』として販売されている雑誌で、内容は、ショッピング・グルメ・旅行・スポーツなどについての最新情報が盛りだくさんのおもしろいものです。読者は主に若い女性（Hanakoさんと呼ばれる。定義は、東京の自宅に住む20代のOLらしい。）のようですが、経済的・時間的に比較的ゆとりを持つ人も、またそうでない人もそれなりの楽しみ方ができる雑誌です。ページをめくると、お金に余裕があれば買うかもしれない“値段の高い日用品”や時間に余裕があれば行くかもしれない“以外と近くにあったおしゃれなお店”が載っています。東京や大阪などでは、このような流行情報誌が活動的な若い女性の、個性的なライフスタイルをリードしているのかもしれない。

活動的、個性的という点で『ケイコとマナブ』（90年2月創刊）は似たことが言えます。この雑誌は、英会話や茶道を学びたい人、情報処理の資格を取りたい人、将来就職したい職業の現場を体験したい人などのために、それらのスクールの紹介（内容や連絡先等）や体験レポートなどを掲載したものです。ページをめくると、「やりたいことで探せるスク



ール情報」や「やりたい場所で探すレッスン情報」（JRや地下鉄沿線別）のコーナーもあり、読者が利用しやすい構成になっています。

このような雑誌が出てきた背景には、前述したような経済的・時間的なゆとりを自分に投資することにより、個性を表現したいという読者の気持ちがあるように思います。このような読者の活動は、ひとつの勉強や体験であり、それらを通じた情報の確認のようです。個性を発見し、磨き、表現したいHanakoさんやケイコさん、マナブくんにとってこれらの雑誌は、国際化・情報化された現代社会において、個人の唯一の武器である個性（あるいは価値観）を応援する雑誌のようです。

（大阪事務所 やまむら こうじ）

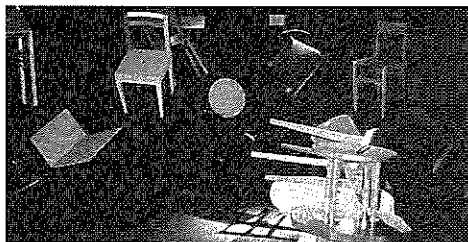
## まちかど

東京めぐり 汐留レールシティ

中塚 一

汐留の操車場跡地において開催されている「CREATIVITALIA」に行ってみた。このイベントは「イタリアの生活とデザイン」をテーマとした美術館として企画されたものである。期限限定型の美術館（どちらかと言うと博物館に近い）でもあり、私が行った時も学生（デザイン系の専門学校の課外研修で集団で来ているグループも多かった）でかなりの反響ぶりであった。会場は、3,000㎡の敷地で「玄関」から始まって「台所」「浴室」「寝室」「ガレージ」等の9つのブース（ここではカーサと名付けている）に分かれており、車から家具、衣服、巨大な浴室に浮かぶモーターボート、20個のスピーカー

空とぶ椅子



が埋め込まれた巨大なベッド（多数の人が横たわっているの、見ようによっては、難民キャンプに見える）等それぞれ個性豊かな演出により展示されていた。最後にはイベント限定のグッズを売っており、それをデザインされた袋に入れてもらい買っていく（入場料ぐらゐは皆買っている）という仕掛である。単品のショールームでは入場料は取れないがあるテーマの基に集めるとお金を払ってでも人は集まるといふことなのか。

（大阪事務所 なかつか はじめ）



巨大ベッド



グッズの販売風景

## アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本 社	〒600	京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル8階)	TEL (075) 221-5132(代) FAX (075) 256-1764
大阪事務所	〒540	大阪市中央区城見1-4-70 (住友生命OBPプラザビル15階)	TEL (06) 942-5732(代) FAX (06) 941-7478
名古屋事務所	〒460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル2階)	TEL (052) 962-1224(代) FAX (052) 962-1225
東京事務所	〒160	東京都新宿区新宿2-5-16 (霞ビル401号)	TEL (03) 226-9130(代) FAX (03) 226-9560
九州地域計画 研 究 所	〒810	福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階)	TEL (092) 731-7671(代) FAX (092) 731-7673
(株)アルパックイン ターナショナル	〒540	大阪市中央区石町1丁目1番1号 (天満橋千代田ビル2号館9階)	TEL (06) 943-7016 FAX (06) 943-7026
併都市居住文化 研 究 所	〒604	京都市中京区御池通東洞院東南角 (京ビル4階)	TEL (075) 252-2231 FAX (075) 252-2282